

まちの話 題



あなたの周りの身近な出来事や話題をお知らせください。
連絡先 市まちづくり推進室 ☎43・8113



持続可能なまちづくりで協力

遠賀信用金庫と包括連携協定を締結



▲原崎智仁市長(右)と握手を交わす遠賀信用金庫の岡部憲昭理事長(左)

市は2月28日に遠賀信用金庫と「福津市・遠賀信用金庫包括連携協定」を締結しました。今後は、市がSDGs未来都市としての取り組みを進めていく中で、さまざまな分野で遠賀信用金庫と連携・協力を行います。その第一弾として、勝浦・津屋崎・宮司地域を対象とした空き家などの活用の取り組みを行います。空き家の家主にとって、維持管理は大きな負担になり、人に貸したくても改修が必要などときもありません。そのため、空き家が放置されることがあり、管理上の問題となっています。そこで、市の調査結果などに基づき、住宅を借りた人がリフォームを行うときに融資が受けられる商品を遠賀信用金庫が開発しました。このような事例は全国にも数えるほどしかなく、県内では初めてのものです。この仕組みによって、家主の負担が軽減されることで、空き家の活用が進み、まちの持続性を高めることが期待されます。

10年間の思い出をありがとう

エンゼルスポーツを閉館



▲最終日は人気の積み木のおもちゃで遊びました

エンゼルスポーツは平成22年4月、福岡駅が現在の駅舎に建て替わる際に開館した、子育て支援を目的とした施設でした。未就学児とその保護者が気軽に立ち寄り、親子で遊べる場として、また、小学生、高校生の学習の場などとして運営してきました。今回、施設の賃貸借契約が満了したことなどに伴って、3月をもって閉館することとなりました。最終日となった3月2日には、これまでエンゼルスポーツを利用してきた保護者や子どもも駆けつけました。施設を運営してきたスタッフは「私たちが逆に皆さんから力をもられた」と感謝を述べていました。今後は子育て支援センターなかよしや児童センターフクスタで、同様の事業を継続して実施します。ぜひご利用ください。

大きく育ってね

水産高校で幼稚園児が魚の放流を体験



▲水産高校の生徒と魚の放流をする園児たち

県立水産高校のアクアライフ科の生徒が卵から育てたカサゴとトラフグの幼魚を、1月24日に光明幼稚園の園児が海に帰しました。放流会当日は60人の園児が参加しました。園児は生徒から、魚の説明を受けた後、100匹以上の魚を放流しました。また、園児は生徒の案内で、水産高校内の魚の養殖場や飼育している生き物を見学したり、金魚すくいに挑戦したりしました。さまざまな生き物と触れ合い、園児たちは大喜びでした。

災害時でも安心して過ごせるように

株式会社グッデイと協定を締結



▲グッデイのよいひで太くん(右)も式に出席

市は2月14日にホームセンターを展開する株式会社グッデイと「災害時における物資の調達及び供給に関する協定」を締結しました。今後は災害発生時などに、グッデイが必要な物資の供給に協力します。調印式に出席した代表取締役社長の柳瀬隆志さんは「災害時でも、市民の皆さんが安心して生活できるようにしたい」と語りました。

越冬地・津屋崎干潟で野鳥観察

干潟みまもり隊による野鳥観察会



▲クロツラヘラサギを観察する参加者

市と共働で津屋崎干潟の保全・啓発活動に取り組む「干潟みまもり隊」が2月8日、野鳥観察会を開催しました。津屋崎干潟とその周辺には毎年、渡り鳥が越冬のために訪れています。参加したおよそ10人は隊員の解説を受けながら、さまざまな野鳥を観察しました。この日は絶滅が危惧されているクロツラヘラサギも確認できました。参加者の一人は「多くの冬鳥を観察できてよかった」と話してくれました。

教育からまちづくりを考える

福岡教育大学ESDセミナーを開催



▲市のSDGsの取り組みも紹介しました

2月16日、市立図書館で福岡教育大学主催のESDセミナーが行われました。ESDとは「持続可能な社会づくりの担い手を育む教育」のことです。SDGsの実現に必要な教育です。当日は、保育園や大学などからESDの事例紹介などがありました。参加者は、持続可能なまちづくりに向けた教育の実践について活発に意見を交わしていました。